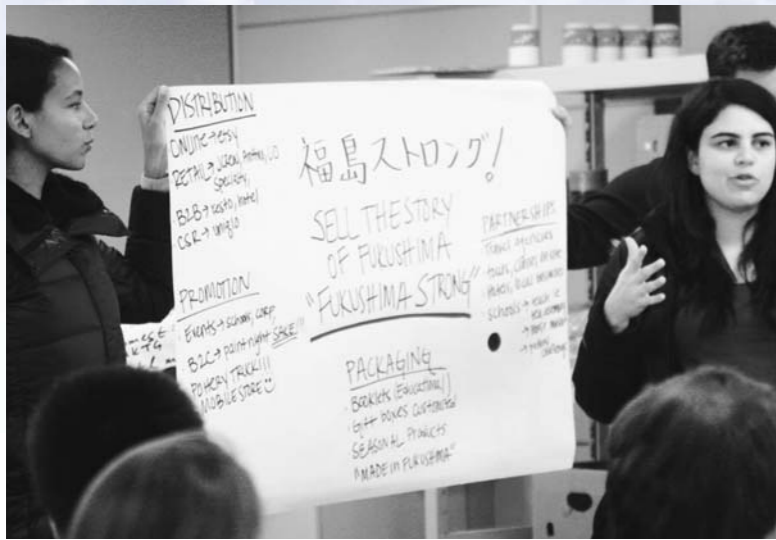


大堀相馬焼の将来を考える



1月9日、米国ハーバード大学経営学大学院の学生37名が、大堀相馬焼協同組合（陶芸の杜おおほり二本松工房）を訪れました。同大学院では、MBA（経営学修士）の授業の一環として、東日本大震災後に様々な新しい動きが生まれている東北地方を毎年訪れていますが、福島県を訪れるのは今回が初めてということです。

この日は各地に分散した窯元のなかから4窯元が二本松に参集し、プログラムに協力してくれました。学生の皆さんは陶芸を体験したあと、窯元の皆さんから大堀相馬焼の現状を学び、この伝統をどのように将来へつないでいくかを考えるワークショップに臨みました。短時間にもかかわらず、各チームからはマーケティング手法や後継者育成など核心をつく提案が発表され、代表して講評を述べたいかきや窯の山田さんと松永窯の松永さんは、「どれも参考にしたい」と話していました。



左から
いかりや窯・山田さん、
陶徳窯・陶さん、
半谷窯・半谷さん、
松永窯・松永さん



いかりや窯・山田慎一さん



松永窯・松永武士さん

人権擁護委員に任命されました

1月1日付けで、人権擁護委員に任命されました。

よろしくお願ひします。

【再任】林 心澄さん（小野田）
鈴木恵一さん（加 倉）

【新任】谷田謙一さん（酒 井）



左から 鈴木さん、林さん、谷田さん

「川添の神楽」仮設住宅で獅子舞を披露

川添芸能保存会の石沢孝行会長らメンバー約10人は、元日から福島市内の仮設住宅などを訪問し、多くの町民の前で川添地区伝統の獅子舞「川添の神楽」を披露しました。

川添地区に伝わる神楽は、家内安全や無病息災を祈って、正月やお盆などに披露されていました。震災後は活動を休止していましたが、一昨年に活動を再開しました。保存会のメンバーの皆さんは各避難先から集まり、練習を重ね、地区に伝わる伝統をつないでいこうと取り組んでいます。



大聖寺「除夜の鐘」が町内に響きました

大晦日の正午から、北幾世橋の大聖寺で「除夜の鐘」つきが行われました。夜間の立入が制限されているため、今回も白昼の行事となりましたが、集まった檀家の皆さんは住職とともに祈りを込めながら百八回の鐘をならし、町内に響きわたりました。



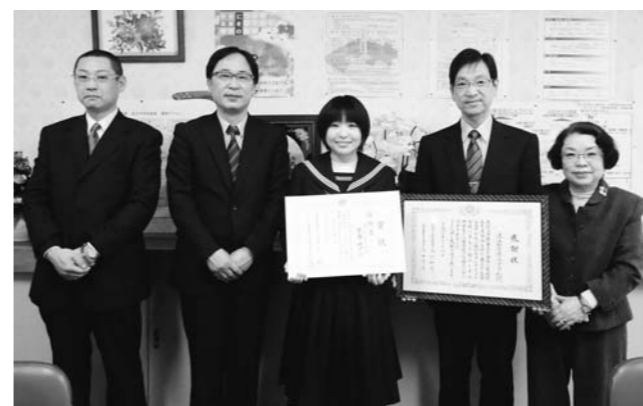
皆さまの身の回りにおける楽しい話題、
いっふう変わった話題などの情報を募集しています。

問 復興推進課情報統計係
TEL 0243(62)4731

中学生人権作文コンテスト表彰

浪江中学校2年生の齋藤姫乃さんの作文「世界の差別」が、福島地方法務局いわき支局長・いわき人権擁護委員協議会長より『奨励賞』を受賞しました。本年度は県内186校から8,624編の応募がありました。

また、全校生が応募した浪江中学校に対し、法務省人権擁護局長並びに全国人権擁護委員連合会長より感謝状が贈られました。



双葉警察署より感謝状贈呈

12月28日に双葉警察署より感謝状が贈られた、浪江地区防犯指導隊と浪江町防犯見守り隊の君島勝見隊長と高橋政雄副隊長が1月12日に役場二本松事務所を訪れ、町長に報告をしました。

この感謝状は、仮設住宅の防犯巡回や町内の防犯見守りの活動など、地域安全活動の功労をたたえたものです。

